

会 議 録

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

		所管課	文化・スポーツ振興課
会議名 (審議会等名)	令和7年度 第4回文化振興審議会		
開催日時	令和7年10月30日(木) 9:30~11:45		
開催場所	塩田公民館 栄養相談室		
会議の公開の可否	☑ ・ 不可 ・ 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可 の場合はその理由			
出席者	委員	杉谷委員、古賀委員、秋吉委員、東島委員、森委員、 松本委員、筒井委員、井上委員、高島委員、一ノ瀬委員	
	事務局	文化・スポーツ振興課長、副課長、主事 各1名	
	その他	【受託業者】 株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所 トータルアドバイザー、まちづくりプランナー 各1名	
会議の議題	別紙のとおり		
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 骨子案 ・ アンケート案 ・ ワークシート 		
審議等の内容	別紙のとおり		

審 議 等 の 内 容

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

		所管課	文化・スポーツ振興
議 題	嬉野市文化振興計画について		
内 容	「取り組み事項」についてのワークショップについて		
審議経過	事務局	2班に分かれてワークショップを進めていただきたい。	
	委員	<p>【A班】</p> <p>「知る」について。人口減少に対応するため、活動団体は中期的な計画を持つ必要がある。行政として、「読書月間・習慣」にならない「文化芸術月間」を設定することを提案したい。森さんなど地域の歴史的な人物をしっかりと調査・評価し、知らせていく作業が必要だ。嬉野の限界を突破するため、広域化を基本戦略とし、それに対する助成や割引制度を設けるべき。「知らせる」について。広報戦略としては、ICTの活用が重要になる。</p> <p>「触れる」について。展示と交流という観点から、先人の業績を残す常設展示が少ないため、歴史民俗資料館などに、そうしたスペースが欲しい。鹿島で伝承芸能大会が行われていることから、嬉野（塩田・嬉野）がお互いにお披露目し合う機会を設けてはどうか。文化は生活の潤いをなすもの。人々が豊かさを見つけられるように、使いやすい施設の提供が必要だ。</p> <p>「繋げる」について。「繋げる」は唯一の他動詞であり、多様に表現できる部分が多い。伝承芸能が危機に瀕しており、特に笛をやる人がいないことが問題だ。集中的に笛の奏者を養成することが大事だ。伝承芸能存続のためには、区を超えた共同が必要である。また、子供世代への働きかけも大切だ。嬉野市全体の文化を統括するコーディネーターの存在が必要ではないか。また、文化を支えるものとして総合図書館が欲しい。</p>	
	委員	観光・歴史連携、観光戦略として長崎街道と石と川の文化をテーマにするのはどうか。「ケンペルの塩田とシーボルトの嬉野」というスローガン	

		<p>を提案したい。モニュメント設置を考えてはどうか。自然歩道の整備も望ましい。</p> <p>委員 「知る」について。地元住民が文化に知識や興味を持つよう、市報を有効活用すべきだ。市報に文化に関する連載コーナーを設け、団体からの投稿も受け付ける。地道な活動を通じて文化を浸透させる。</p> <p>「触れる」について。市内外を含めた文化に関するツアーを定期的に(年1~2回)実施するのはどうか。</p> <p>リパティは規模的にも使いづらい。ユースポのような既存施設の利用制約(スポーツ施設のため長期間貸し出せないなど)の問題がある。文化活動に使える施設を市内に作るか、近隣地域(武雄、鹿島など)と連携して確保する必要がある。</p> <p>活動には人、金、情報といったリソースが必要。市役所も財政が豊かではないため、市長には歳入を増やし、市民のために資金を十分に使用できるような施策を期待する。</p> <p>委員 囲碁を始めて7年経つが、囲碁が打てる場所を探しても長崎しか出てこないなど、佐賀県内でも情報が不足していると思う。実際にはコミュニティや公民館などで活動している場所があるため、この時間にこの人数で、初心者が参加できるといった具体的なマップがあれば、活動したい人が掘り起こされるのではないかと思う。</p> <p>委員 施設訪問などの活動をしているが、コロナで減少してしまった。活動を通じて喜んでもらえる場を作りたい。若い人の参加が少なく、子供を誘うことで継続性を確保したい。老人会の活動も減少しており、魅力ある内容にする必要がある。</p> <p>委員 【B班】</p> <p>「知る」について。地元の方を中心に、回覧板、新聞、市報への投稿、SNS、ケーブルテレビ、学校・老人会の協力を得て知らせるといった意見が出された。</p> <p>「触れる」について。小学6年生や中学3年生への里の体験や見学を促し、文化に触れてもらう。浮立の体験や資料館の拡充という意見も挙げられた。</p> <p>「繋げる」について。学校や老人会の協力を得て、楽しい運営と気安い雰囲気を作ることが重要という意見がでた。また、リーダーを育てることが最も難しく、文化や団体を存続させるために重要であるという意見が出された。</p>
--	--	---

委員	<p>市が文化に対してどれくらいの思いを持っているかが大事ではないか。市報に文化のページを載せることや、サークルへ小さな補助金を渡すなど、市側のバックアップが非常に大きいと思う。</p> <p>図書館での読み聞かせ活動の経験から、職員の質が非常に重要だと感じている。公民館や図書館など市民と接する職員の人材育成も大事である。</p>
委員	<p>市のバックアップが必要だ。企業の助成金もあるが、市役所がもっと市民に知らせるべき。組合を立ち上げた際の経験からいうと、骨格を作るための初期資金の提供や情報提供が非常に助けになる。市は少なくとも団体代表者には、団体活動に有益な情報を提供するべきではないか。</p>
委員	<p>市が温泉関係にばかり予算を投じていると感じる。伝承芸能やコミュニティがやっている地道な活動にもっとお金を振り分け、現在生活している人たちのために使って欲しい。</p>
委員	<p>若い世代は SNS で情報を得ているが、年配者は新聞や市報に頼っている。市報を充実させて情報発信をしっかり行うべきだと思う。</p> <p>塩田津で勤務しており、毎年小学校 6 年生と中学校 3 年生を対象に塩田津の見学や体験を実施している。最近嬉野のほうから吉田中学校も初めて参加した。このような体験、取組を広げることが重要だ。</p> <p>地区で鉦浮立を行っているが、高齢化しており、10 年後には平均年齢が上がるだけという状況だ。諦めることは簡単だが、続けるための努力はしていきたい。現状では、笛の奏者が見つからず、教えても高校卒業でいなくなる。笛は音が出るまで 3 年程度かかる。楽譜は使えず、耳と手で覚える必要がある。若者に無理をさせると嫌われるため、うまく引きずり込む努力が繋げる上で最も重要だと考えている。</p>
委員	<p>「知る」について。イベントを知ってもらわなければならないが、70 歳代以上の多くはスマホや SNS が使えない。スマホ教室のような、使い方を教えてくれる場を求めている。新聞は高齢者層が必ず見る。</p> <p>「触れる」について。体験が重要で、お茶体験などを通して文化に触れて欲しい。</p> <p>「繋げる」について。塩田の奥地で毎年ミニコンサート（15 回目）を実施している。地元の中学校に呼びかけ、ピアノや打楽器など様々な参加者が集まっている。</p>
委員	<p>自分の経験を話したい。「知る」ということに関してだが、われわれの楽団は、回覧板、新聞、市報、SNS、ケーブルテレビなど全ての広報手段を使っている。年間 1 万 2000 枚のチラシと 2000 枚のポスターを配布している。10 年間徹底して活動しても、嬉野町内での知名度は約 30%に</p>

	委員	<p>しかない。</p> <p>「触れる」ということについてだが、われわれは年に最低 28 回（今年は 32 回）の公演を行っている。下手な演奏は誰も魅力を感じないため、毎年コンクールに出場し、競技の音楽を行うことで団体全体のレベルを上げている。伝承芸能祭での経験から、伝統的なものであっても真剣な音楽で臨む必要があると痛感している。</p> <p>「繋げる」ということに関してだが、小中学生の団員が減っている中、大人たちが「楽しい」という姿を見せることで子供たちはついてくる、という方針で指導している。自分たちが一生懸命やっている姿勢が共感を呼ぶと考えながら活動を行っている。</p> <p>学校教育で文化を「学ぶ」「体験する」だけでなく、「その魅力」を伝えることが重要だと認識している。温泉体験のなど、体験しただけで終わらせず、その魅力をどう伝えるかが問題だと思う。</p> <p>魅力を教える側の大人（社会人）向けの教育や、魅力を伝える場が必要だ。地元住民が地元の良さを知らないという状況を変える必要がある。また、魅力が伝われば、市外へ出た人が戻ってくるきっかけとなると思う。</p> <p>予算の偏りという意見に対してだが、塩田の住環境整備や街並み保存会への委託金は全国でも有数の大きい金額となっている。塩田は九州の中でも上位の「伝建地区」として評価が上がっている。</p>
内容	報告事項 計画骨子・市民アンケートについて	
審議経過	事務局	配布資料を確認いただき、意見等あれば出してもらいたい。
	委員	消えていく伝統芸能に対して意識を持った回答が得られるような設問が必要ではないか。現在のアンケートはさらっと答えられてしまう。活動に参加した人に、楽しかったか、地域のつながりが強くなったかといった肯定的な結果を問うサブ質問を設けるべきではないか。
	事務局	伝承芸能活動については、県が調査を行っているので、それを参照しながら、計画を策定したい。アンケートについては、活動をしている人を対象に、サブクエスチョンを加えたい。
	委員	「あなたの人生に文化は必要ですか？」という質問を入れてもらいたい。
	事務局	承知した。
その他		